

他自治体のごみ減量化(食品関係)施策について

No	自治体名	名称	概要	田川市での取り組み	備考
1	長野県 松本市	30・10(さんまるいちまる)運動	飲食店での食べ残しを減らす取り組みとして、宴会時に、乾杯後30分間は席を立たず料理を楽しみ、お開きの前10分間は自分の席に戻って、再度料理を楽しむという取り組み	・市内の飲食店100店舗にポスター、チラシ、テーブルトップを送付した。 ・市役所内の職員が毎日見るパソコンの掲示板に、忘年会等での30・10運動実施を呼びかける内容を掲載し、併せて、職場にポスター、テーブルトップを配布し、さらに、職員には啓発用ポケットティッシュを配布した。	参考資料2
2		園児を対象とした環境教育	食べものを作ってくれた人への感謝の心、資源の大切さを忘れない心を育むため、幼いころから環境に対する意識を高めようと、感受性豊かな園児を対象に参加型の環境教育を実施 スライドを使ったクイズと説明や、「おいしくのんでリサイクル」のダンスをみんなで踊るなど	園児に対する環境教育としては、温暖化対策である打ち水を体験してもらうという取組を行っているが、食べ残しの削減やリサイクルという観点での環境教育は行っていない。	参考資料3
3		環境教育の実施に伴う効果測定事業	小学校において、授業の一環で食品ロスや3Rをテーマとして取り上げてもらい、給食の食べ残し量の調査(授業の前後)を行うとともに、保護者に対し、保護者とこの環境に関する意識の変化等を聞き取る取り組み	毎年、市内小学校に環境副読本(3、5年生)を配布している。	参考資料4
4		食品ロス削減啓発用紙芝居作成プロジェクト	子ども達の、食べものを作ってくれた人への感謝や資源の大切さを忘れない心を育み、食べ残しをなくして食品ロスを減らすための食品ロス削減啓発用紙芝居を作成。 脚本・絵・文すべてを松本市内の保育園で働く保育士ら5人で作成し、保育士の実体験を基にした、子ども達が身近に感じられる内容としている。	実施なし	参考資料1 参考資料5
5		一般家庭ごみ生ごみ組成調査	一般家庭における①調理くず、②食べ残し、③手つかず食品(消費期限、賞味期限等の割合、程度)等の各重量及び生ごみに占める割合などを調査	焼却場で受け入れているごみの組成調査は毎年実施しているが、左欄の①②③は厨芥類という区分での組成調査となっている。	
6		松本大学との連携した「もったいないクッキングレシピ」の開発	家庭からの食品ロスを削減するため、松本大学の学生による柔軟な発想と、松本市からの食品ロスに関する情報提供により、もったいないクッキングレシピの開発を行い、そのレシピを製本して配布。	平成28年度に広報たがわでエコクッキングレシピを掲載	参考資料6、7
7		冷蔵庫クリーンアップデー、もったいないクッキングデー	毎月30日は冷蔵庫クリーンアップデー: 冷蔵庫の中を点検し、賞味期限・消費期限の近い物や野菜・肉等の傷みやすい物を積極的に使用する 毎月10日はもったいないクッキングデー: 特に、今まで食べられるのに捨てられていた野菜の茎や皮などを活用して子供と一緒に料理をするもったいないクッキングを実践する。	実施なし	
8	宇治市	出前講座	小学校、中学校、保育園、幼稚園からの要望に応じて、次のような内容で出前講座を実施 ①ごみの話、②紙芝居、③パッカー車の見学、乗車体験、④収集実演、収集体験、水分飛散実験、⑤リサイクルに関する〇×ゲーム、⑥分別ゲームなど	NPO法人大地といのちの会(佐世保市)の吉田先生や市職員を講師として、「生ごみの堆肥化による野菜作り」をテーマとした小学校での出前講座を実施している。	参考資料8
9	直方市	小学校における生ごみ(給食残渣、食べ残し)の堆肥化	小学校各校に業務用の電動生ごみ処理機を設置し、堆肥化を行っている。	給食残渣等の堆肥化を行うため、市内小学校1校に生ごみ処理容器を設置してもらえるよう準備を行っている。	
10	北九州市	フードドライブ	家庭に眠る食品のうち、賞味期限が1か月以上あるものや未開封のものなど、寄付をしてもらえる食品を集め、その食品が必要な方(児童福祉施設、自立支援施設、生活困窮ひとり親家庭等)へ提供する取り組みで、NPO法人フードバンク北九州ライフアゲインの取り組みを北九州市が支援している。	実施なし	参考資料9
11	名古屋市	3ない運動	「買いすぎない、作つくりすぎない、食べ残さない」の3ない運動	実施なし	
12	大分市	サルベージパーティ	参加者が家庭で持てあましている食材を持ち寄り、シェフがその場でレシピを考え料理をし、出来た料理をみんなでシェアするパーティで、持てあましている食材でも様々な活用方法があることを認識してもらい、食品ロスの削減につなげる取り組み	実施なし	